短報

中途障害者とその介護者の参加による 小地域 ネットワークづくり --- 岡山市における「元気の 出る会」について ---

岡 京子1) 宮原伸二2)

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 医療福祉学専攻1)

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科2)

2001-06-07 00:00:00+09受理

Organizing a Small Size Community by participation of the Disabled in the Middle —— [An Association of Cheer Up] In Okayama City

Kyoko OKA¹⁾ and Shinji MIYAHARA²⁾

Master's Program in Medical Social Work Graduate School of Medical Welfare Kurashiki, 701– 0193, Japan¹⁾

Department of Medical Social Work Faculty of Medical Welfare Kurashiki, 701–0193, Japan²⁾

(Accepted 2001-06-07 00:00:00+09)

Key words:the disabled in the middle, independence, self-determination, contribute to social welfare

要約

岡山市においては、中学校区単位で「元気の出る会」と称する脳血管障害後遺症を中心とする中途障害者の当事者会が組織されている。会のメンバーはその中で障害を受容し、自立を獲得し、さらに社会参加へと成長している。その活動は、障害当事者がこれからの地域づくりにおける重要な役割を担うことの可能性について示唆している。